

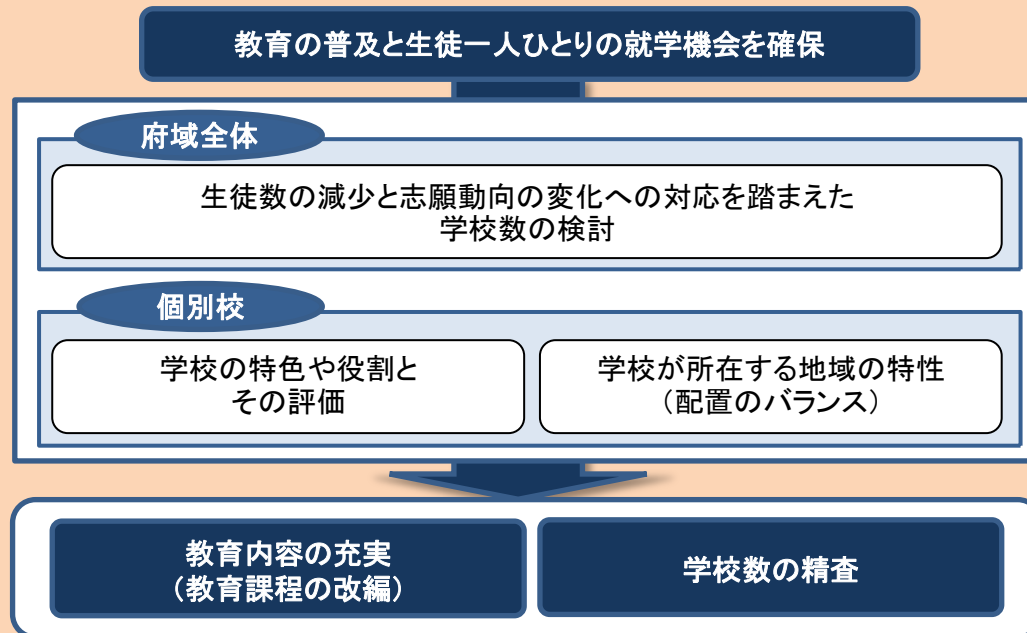
府立高校の再編整備について (中間まとめ)

平成24年8月

大阪府教育委員会

1 基本的な考え方

- 府立高校については、教育の普及及び機会均等を図りつつ、将来の生徒の数、入学を志願する者の数の動向、当該府立高校の特色、その学校が所在する地域の特性その他の事情を総合的に勘案し、効果的かつ効率的に配置できるよう、再編整備をすすめる。
- その際には、府立高校において「卓越性を活かす教育」「公平性を備える教育」「多様性を尊重する教育」を実現するため、教育内容の充実と学校数の精査を並行して行うこととする。



教育内容

卓越性を
活かす教育

公平性を
備える教育

多様性を
尊重する教育

- ✦ グローバル社会で活躍できるリーダーの育成
- ✦ 大阪の多様な社会経済基盤を支える人づくり
- ✦ 置かれている環境にかかわらず、社会的経済的に自立して生きていく人づくり

これらを実現するため

- 生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに応える教育課程や教育活動の提供

配置

- ✦ 教育の普及と生徒一人ひとりの就学機会を確保する観点から、府域全体のバランスを考えた高校の配置

検討にあたっての視点

- 生徒数減少と志願動向の変化への対応（適正な学校規模を踏まえた学校数のあり方）
- 学校の特色を踏まえた配置のあり方
- 地域の特性を踏まえた配置のあり方

【参考】「大阪府立学校条例」(平成24年4月)

(府立学校の配置及び通学区域)

第2条 府立学校は、教育の普及及び機会均等を図りつつ、将来の幼児、児童及び生徒の数、入学を志願する者の数の動向、当該府立学校の特色、その学校が所在する地域の特性その他の事情を総合的に勘案し、効果的かつ効率的に配置されるよう努めるものとする。

2 入学を志願する者の数が三年連続して定員に満たない高等学校で、その後も改善する見込みがないと認められるものは、再編整備の対象とする。

2 再編整備の進め方

(1) 府域全体の精査

- 府域全体及び地域ごとの生徒数減少と公私間の志願動向の変化を踏まえ、府域全体における公立高校数を精査する。

⇒資料1～2

- 高等学校の授業料への支援施策など、選抜環境に影響を与える要素に変化があれば、弾力的に対応する。

- 学校規模については（普通科において1学年6～8学級を基本としながら）学校の実情に応じて弾力的に設定する。

⇒資料3

(2) 個別校についての精査

- 各学校が果たしている役割や、教育課程・教育活動といった教育内容の特色、志願動向に見られる特徴等の学校の特色を踏まえて精査する。

⇒資料4

- 公共交通機関の整備状況や、高校の設置状況、地域振興における高校の位置づけ等の地域の特性を踏まえて精査する。

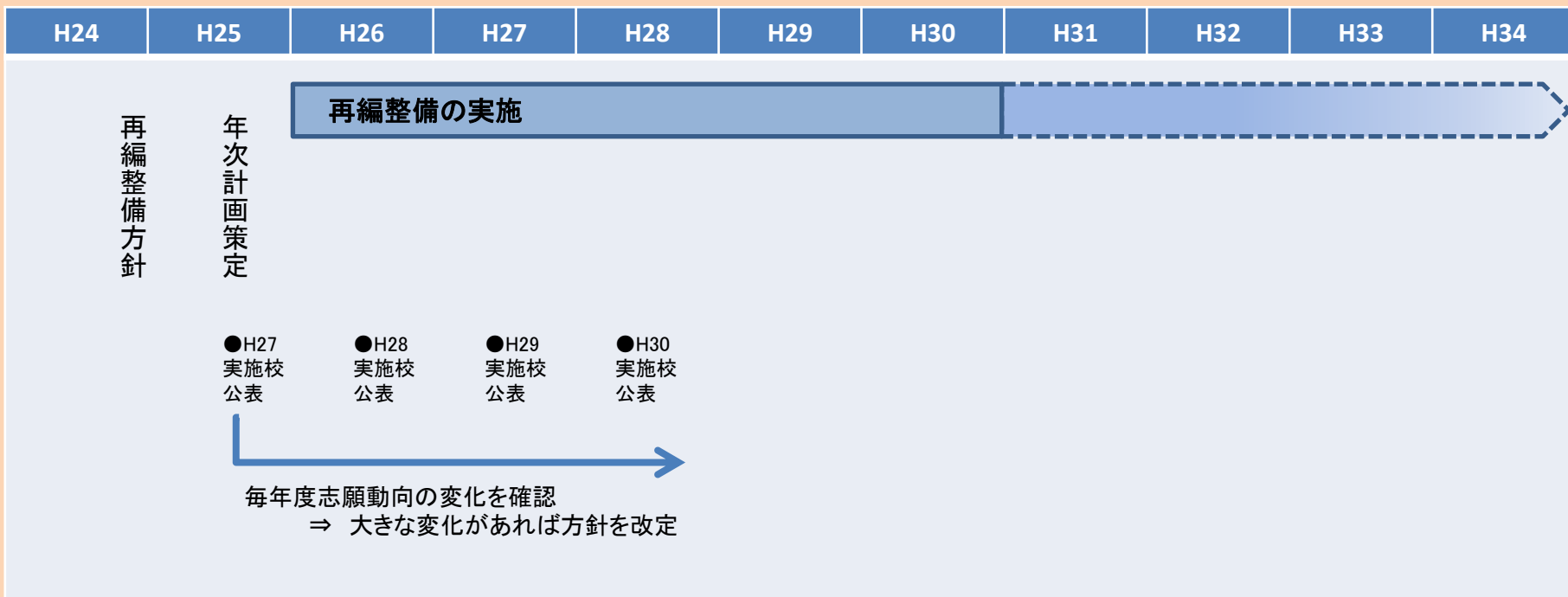
⇒資料5

- 3年連続して定員に満たない高等学校については、改善の見込みを踏まえて精査する。

⇒資料4－③

3 今後のスケジュール

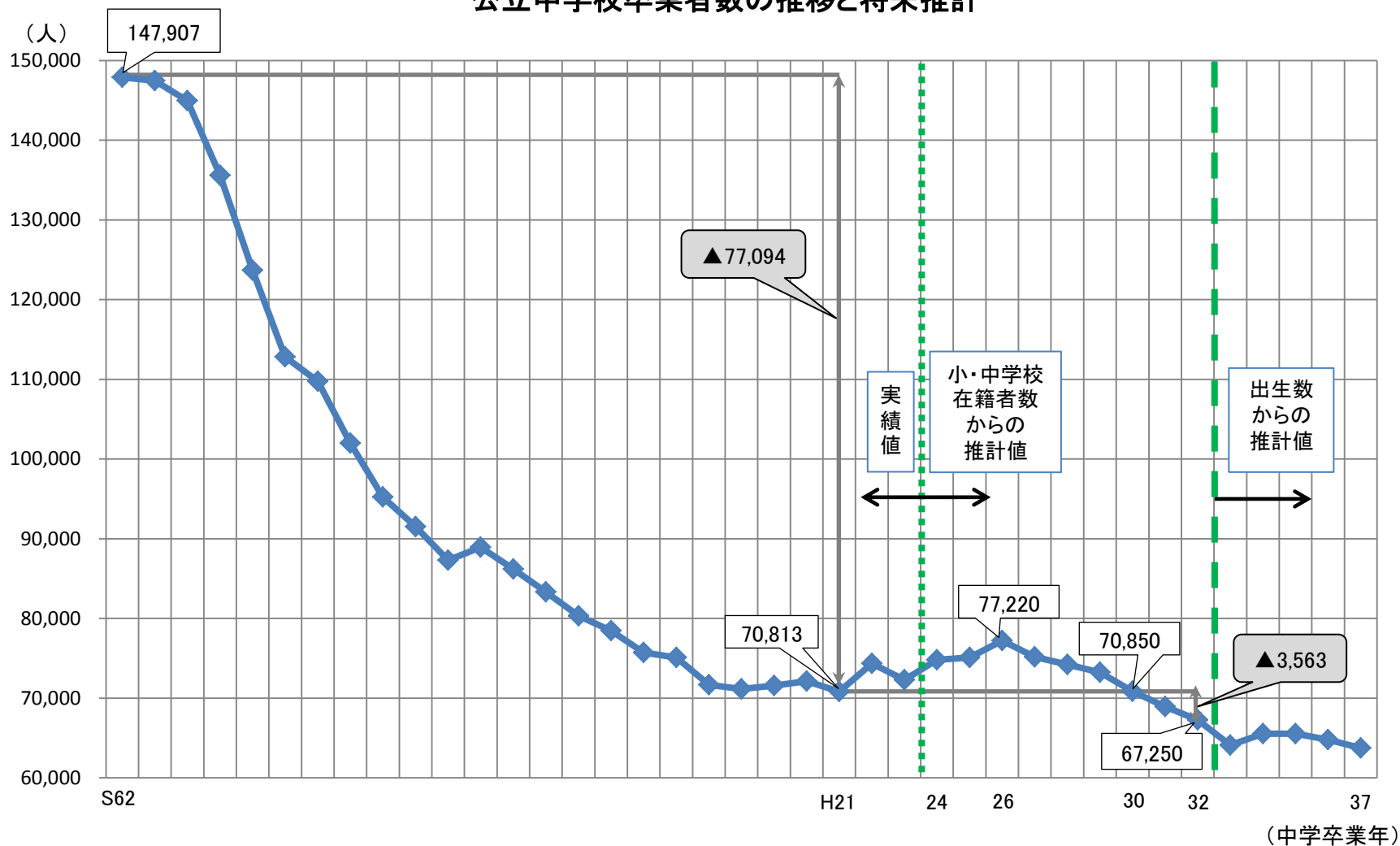
- 教育振興基本計画の計画期間（平成34年度まで）を見通しながら、平成24年度中に再編整備方針を策定する。
- 平成26年度から平成30年度までの5年間の再編整備の年次計画を平成25年度中を目途に策定する。
- 再編整備対象校は、受検生に与える影響を考慮し、実施予定の前々年度に公表する。



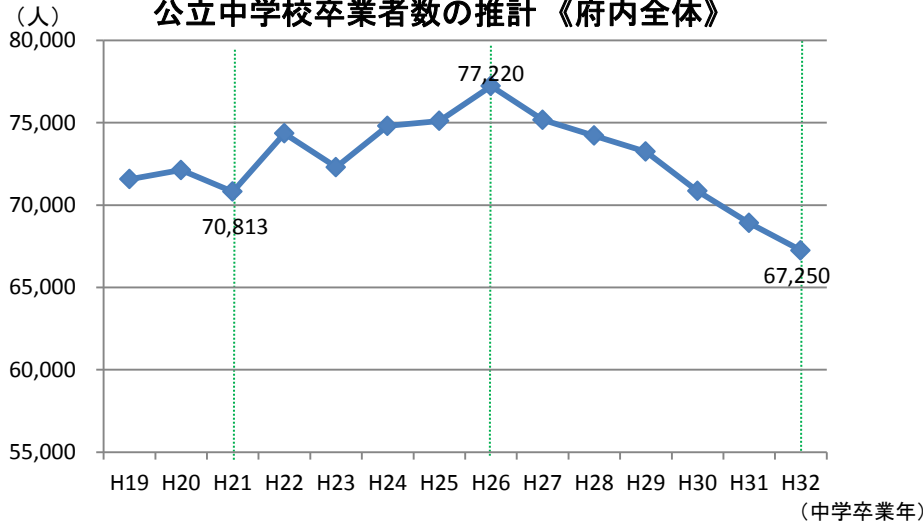
資 料

○ 生徒数の推移

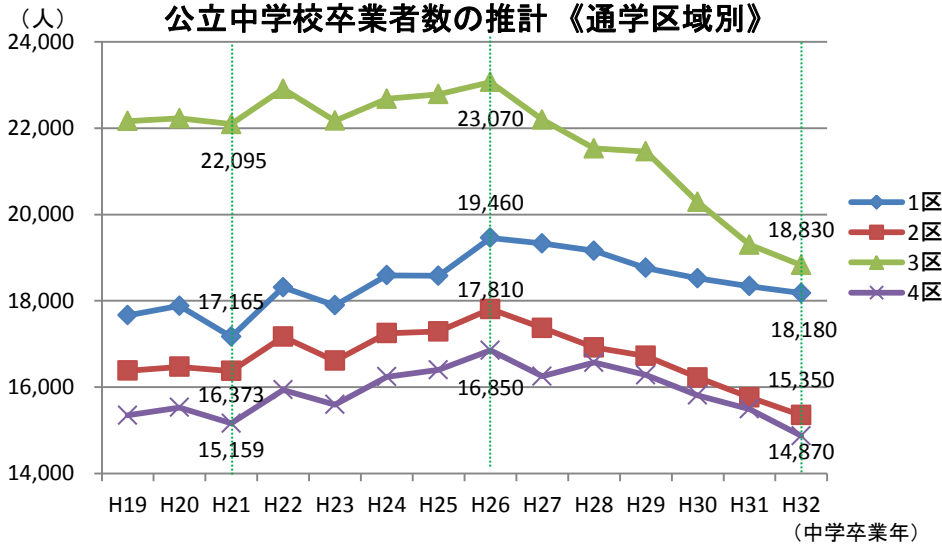
公立中学校卒業生数の推移と将来推計



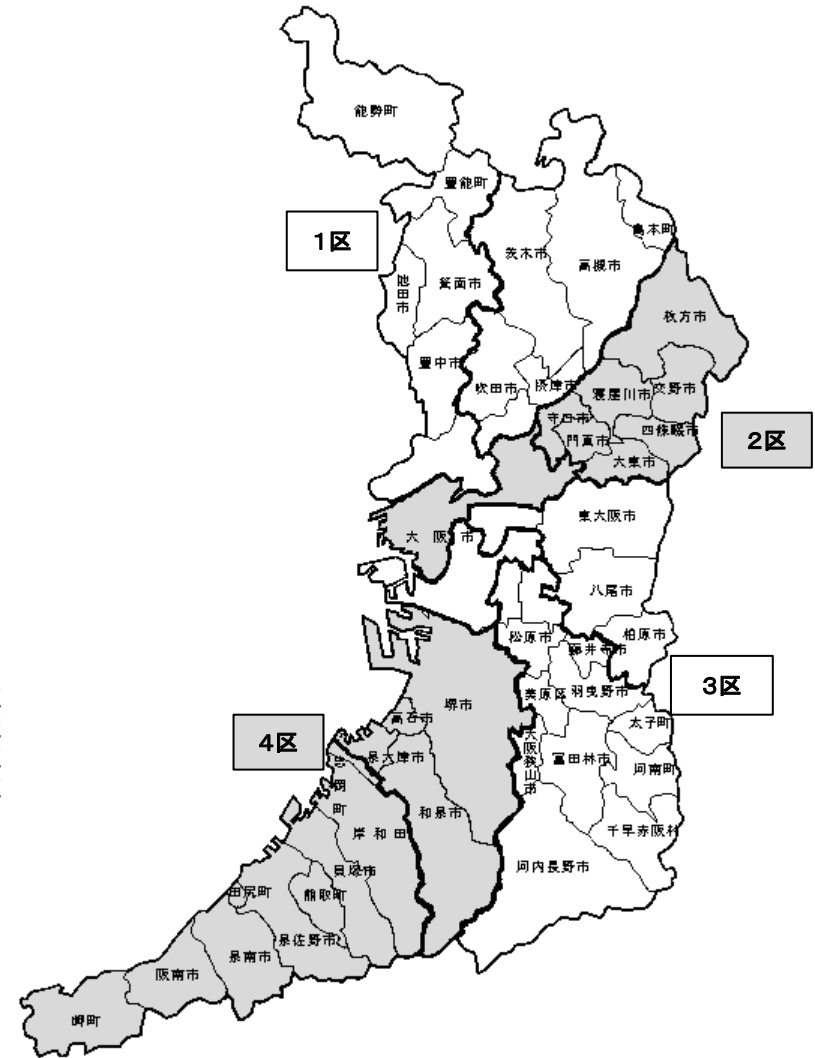
公立中学校卒業生数の推計《府内全体》



公立中学校卒業生数の推計《通学区域別》



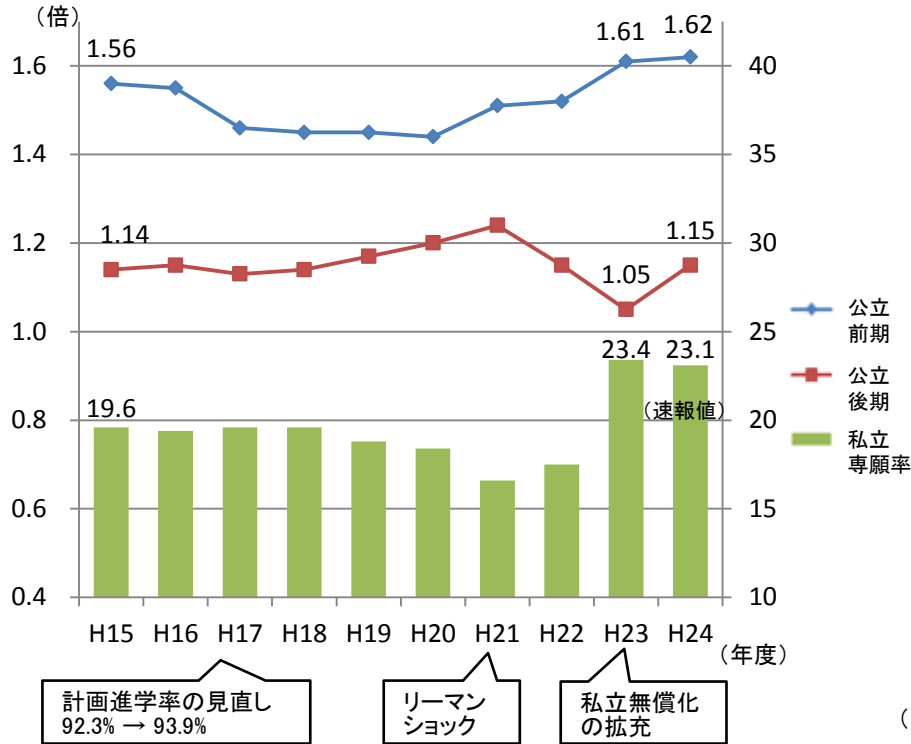
公立高校全日制普通科(単位制を除く)の通学区域



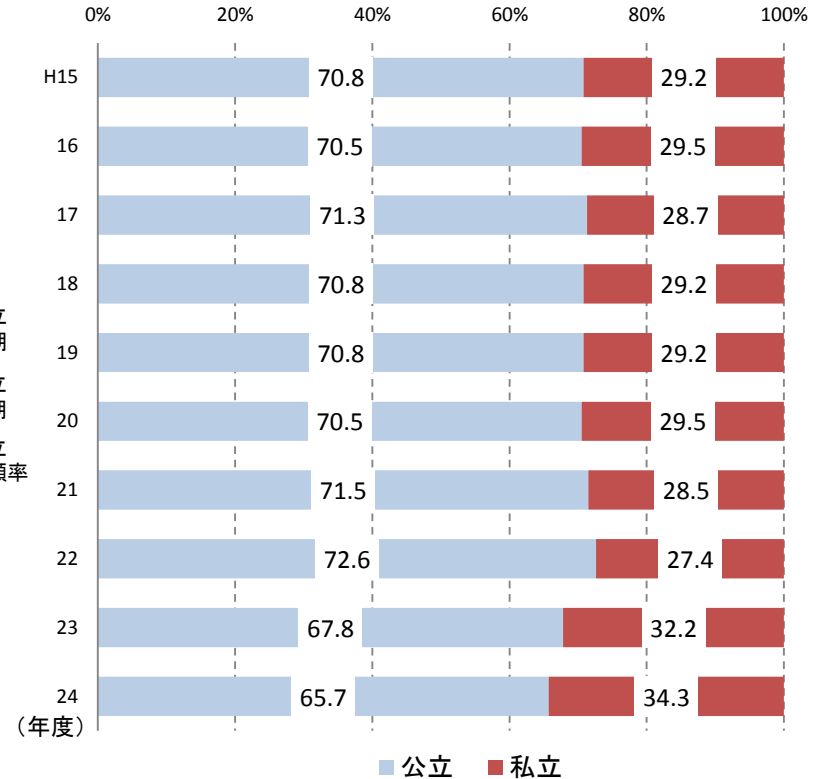
(注) 統計処理上、各区の合計は、府内全体の推計と一致しない。
※大阪府教育委員会調べ

○ 志願動向の変化

公立高校(昼間の高等学校)の志願倍率と
府内私立高校の専願率の推移



昼間の高等学校における
公立中学校卒業者の公私の受入実績比率の推移



(注1) 「公立後期」は、全日制普通科(単位制除く)とクリエイティブスクールの合計

(注2) 専願率 = $\frac{\text{府内公立中学校卒業者のうち府内私立高校専願の志願者数}}{\text{公立中学校卒業生数}}$

※大阪府教育委員会調べ

※大阪府教育委員会調べ
私立専願率については、大阪私立中学校高等学校連合会調べ

○ 昼間の府立高校数・学校規模・学級定員の推移

	公立中学校 卒業生数	府立 高校数 (分校)	募集 学級数	1校あたりの 募集学級 (平均)	普通科 学級定員
昭和 62年度	147,907	152 (5)	1,779	8~16 (11.9)	48

※ 分校数は外数



平成 21年度	70,813	138	1,125	6~9 (7.3)	40
S62 との差	▲77,094	▲14	▲654	— (▲4.6)	▲8

平成 24年度	74,832 (速報値)	138	1,133	5~10 (7.3)	40
------------	-----------------	-----	-------	---------------	----

(注) ・「府立高校数」は当該年度に募集を行った校数
 ・「1校あたりの募集学級数」は全日制普通科のデータ(分校・併置校を除く)

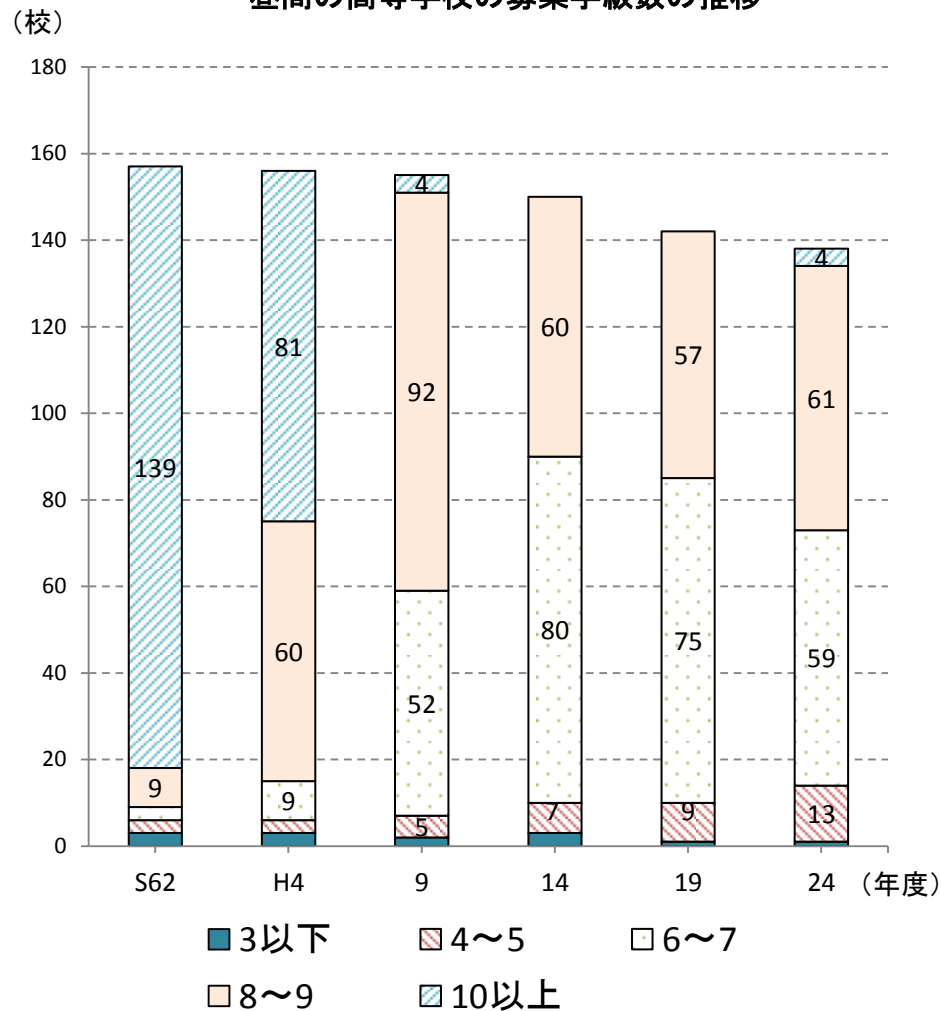
○ 府立高校の募集学級数

主な学校のタイプ別の募集学級数

学校のタイプ	学級数
普通科(併置校除く)	5～10
普通科総合選択制	5～7
総合学科(能勢及びクリエイティブスクールを除く)	6～7
全日制単位制高校 (教育センター附属を含む)	6～9
クリエイティブスクール	4～6
夜間定時制	2～3
工科高校	7～8
国際・科学高校	7～8

(注) 平成24年度選抜における募集学級数。
なお、総合学科の能勢は2学級。

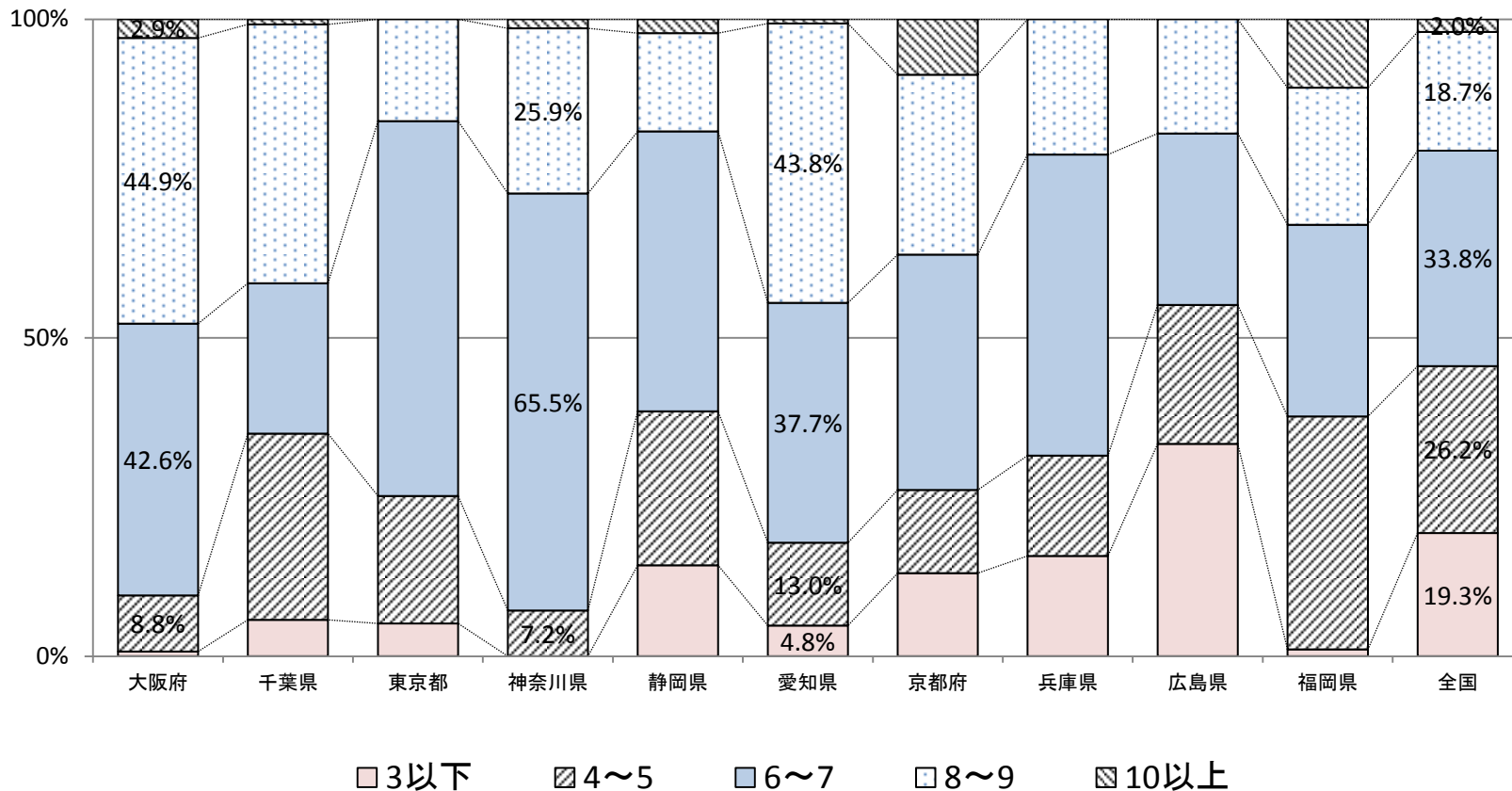
昼間の高等学校の募集学級数の推移



(注) 昭和62年度及び平成4年度については、分校を含む。

※大阪府教育委員会調べ

○主要都府県の募集学級別学校数の比率



(注) 都府県立、全日制の課程(本校のみ)

出典:「富山県教育委員会 平成24年度 全国公立高等学校 第1学年 募集状況」

○ 教育課程における特色づくり

【平成11年度】

普通科高校	普通科のみ	117校
	専門学科併置	19校
総合学科高校		3校
専門高校		16校
夜間定時制高校		29校
通信制高校		1校



【平成24年度】

普通科高校 (108校) ※大和川(募集 停止)を含む	普通科のみ	36校	
	専門コース設置	28校	
	専門学科 併置 20校	文理学科	10校
		国際教養科	6校
		体育科	2校
		芸能文化科	1校
		音楽科	1校
	総合選択制	19校	
	単位制	4校	
	教育センター附属高校	1校	
総合学科高校	10校		
専門高校 (15校)	農業	2校	
	工科	9校	
	国際・科学	3校	
	総合造形	1校	
クリエイティブスクール	6校		
夜間定時制高校	15校		
通信制高校	1校		
連携型中高一貫校	2校		

(注) 網掛け部分は「大阪の教育力」向上プラン(前期計画期間:H21~25)に基づき設置したもの(うち、専門コース設置は22校、体育科及び中高一貫校は1校のみ該当)。また、中高一貫校は再掲扱い。

○ 教育活動における特色づくり

資料4-②

【参考】「がんばった学校支援事業」(平成23年度～)における成果の評価基準例

➤ 「卓越性を活かす教育」の視点

①**全国唯一の取組み** … 全国で例をみない取組み(伝統的な芸能や技術の継承への取組みなど)

(取組例) ・「たたら製鉄、打ち刃物、線香製作」の取組み

②**特に顕著な成績をあげた教育活動** … 学校単位での教育活動の結果、一定の活動成果が認められ、その継続性と努力度が顕著で他校のモデルとなっている。

(取組例) ・エコキャップ回収運動による社会への還元
・「日本版デュアルシステム」の取組み
・飼育動物の食肉ブランド化と商標登録の取組み

③**資格取得率等の伸び** … 国家資格や全国校長協会等が主催する資格試験等の取得人数や取得率及び伸びが全国平均等と比較してきわだっている。

(取組例) ・「ジュニアマイスター顕彰」取得率の伸び

④**社会貢献・ボランティア活動** … 学校単位で、数年にわたって社会貢献・ボランティア活動を実施した結果、活動成果が認められる。

(取組例) ・「チャリティマラソン」の取組

⑤**部活動** … 学校での部活動指導により、全国レベルでの大会等において、その成果の伸びが著しい場合や、極めて高い成果を継続的にあげており、そのがんばりが他校のモデルとなるなど幅広く評価される活動である。

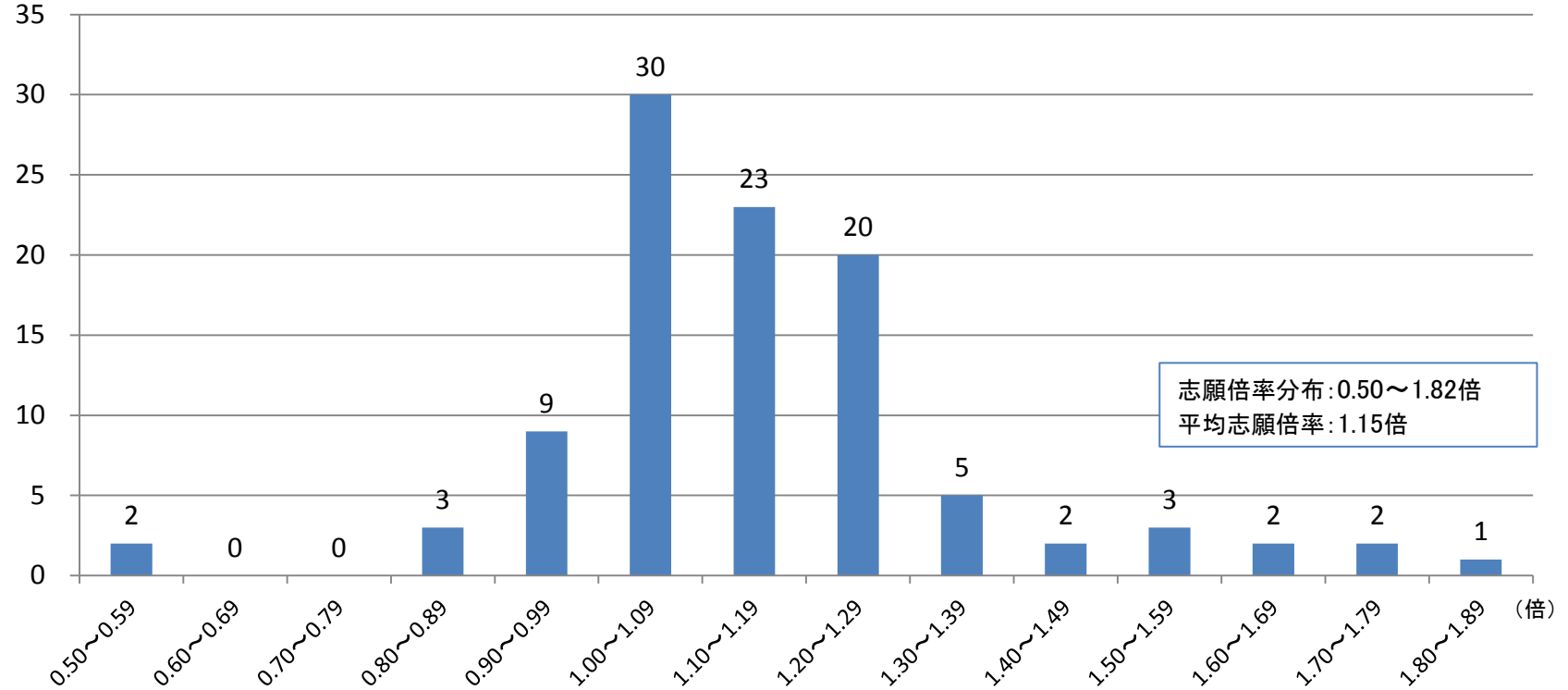
➤ 「公平性を備える教育」の視点

⑥**進路未決定率の減少** … 府立高校全体のデータを基に、各校の「減少幅」及び「減少率」を評価するとともに、未決定率(数値)そのものも大阪府及び全国平均値と比較した結果、きわだった成果をあげている。

⑦**中途退学率の減少** … 府立高校全体のデータを基に、各校の「減少幅」及び「減少率」を評価するとともに、中途退学率(数値)そのものも大阪府及び全国平均値と比較した結果、きわだった成果をあげている。

○ 学校ごとの志願動向

(校) 平成24年度 府立高校全日制の課程普通科(単位制を除く)の後期選抜における志願倍率の分布(全102校)



○ 地域事情の考慮

【観点】

- ・ 電車等の公共交通機関の整備状況
- ・ 私立高校も含めた高校の設置状況
- ・ 地域振興における高校の位置づけ など

(府立能勢高校の例)

- ・ 公共交通機関は「阪急バス」のみ。
- ・ 能勢町と隣接する豊能町も含め、豊能郡域内には他の高校は設置されていない。
- ・ 能勢町から府立池田北高校(能勢高校に次いで近い立地)への通学時間は、町中心部から約1時間20分(バス→電車→バス)

(参考)

『公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律』(高校標準法)
第4条(公立の高等学校の適正な配置及び規模)

都道府県は、高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立の高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない。この場合において、都道府県は、その区域内の私立の高等学校並びに公立及び私立の中等教育学校の配置状況を十分に考慮しなければならない。

○ 府立高校の配置状況(その1)

全日制普通科(総合選択制を含み、単位制を除く)の配置状況

通学区域	学校数
1	28
2	22
3	31
4	22

(注) 平成24年度設置校 (府立大和川(平成23年度から募集停止)を含む。)

特色ある学科等の配置の考え方と現状

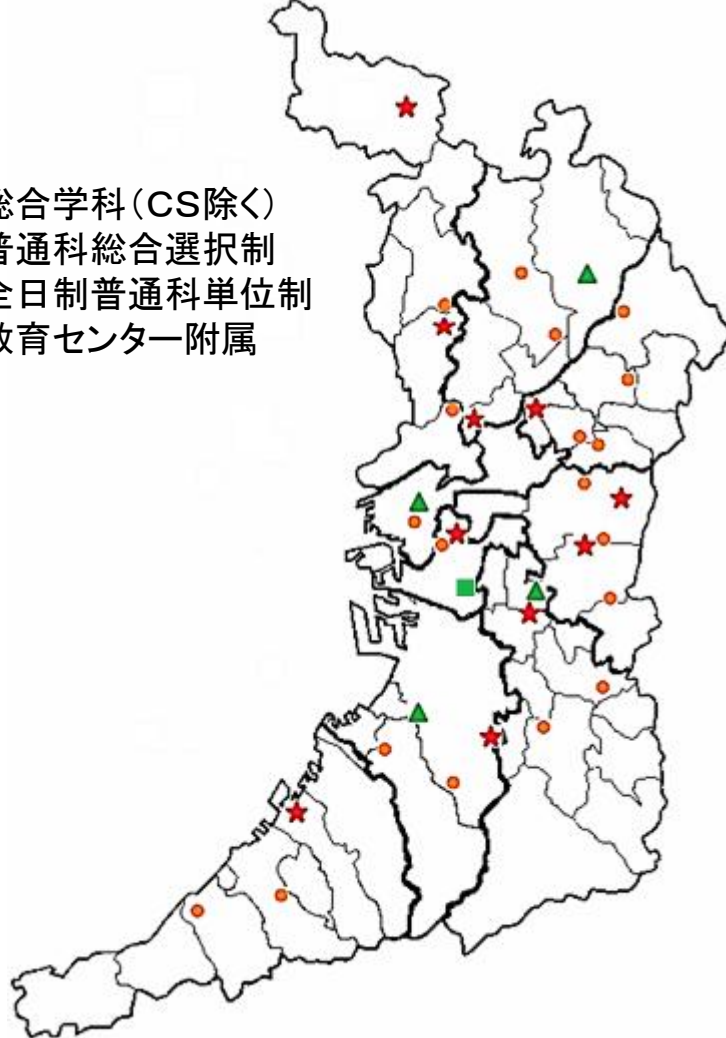
学校のタイプ	配置の考え方	学校数
総合学科 (クリエイティブスクールを除く)	各通学区域に1校程度	10
全日制普通科単位制高校 (教育センター附属を含む)	府内にバランス良く配置	5
クリエイティブスクール	府内の各地域から通学できるよう地域バランスを考慮し配置	6
夜間定時制	府内の各地域から概ね1時間で通学できるよう配置	15
農業高校	—	2
工科高校	地域バランスや通学利便性、産業の集積状況などを踏まえ配置	9
国際・科学高校	府内の地域バランス、通学の利便性を考慮して配置	3
体育・芸術系	—	5

(注) 「配置の考え方」は、「府立高等学校特色づくり・再編整備計画(全体計画)」による。また、通学区域は平成18年度以前の旧9区をさす。

○ 府立高校の配置状況(その2)

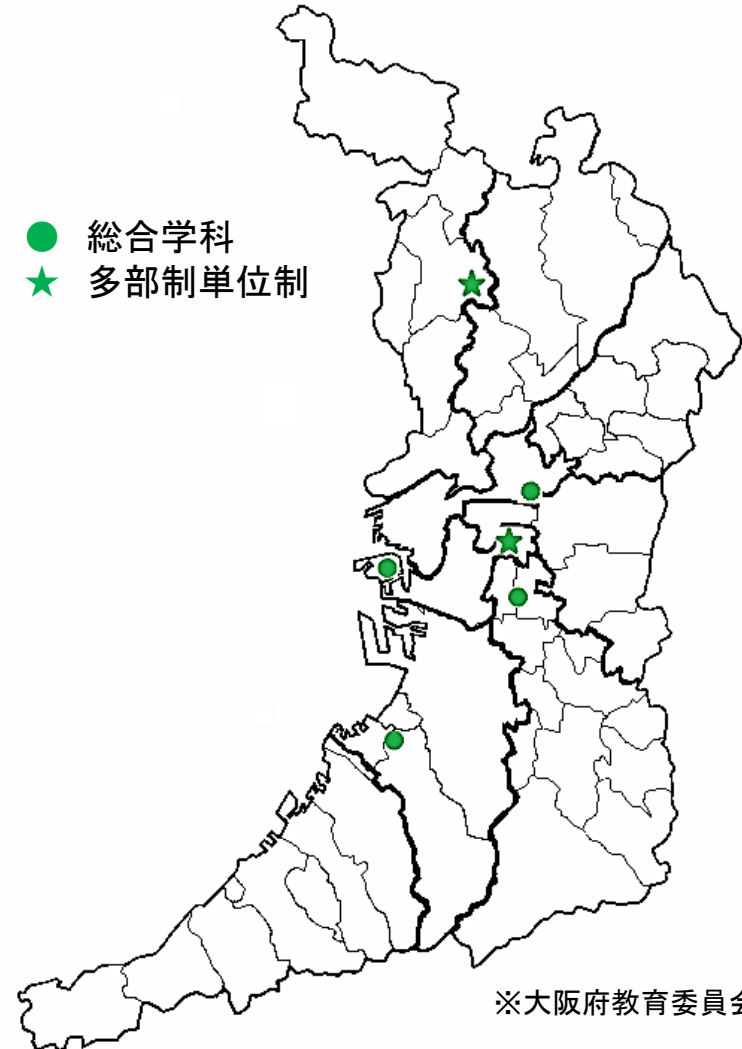
全日制総合学科(クリエイティブスクールを除く)、全日制普通科総合選択制、全日制普通科単位制(大阪府教育センター附属を含む)の設置状況

- ★ 総合学科(CS除く)
- 普通科総合選択制
- ▲ 全日制普通科単位制
- 教育センター附属



クリエイティブスクール(全日制総合学科、多部制単位制)の設置状況

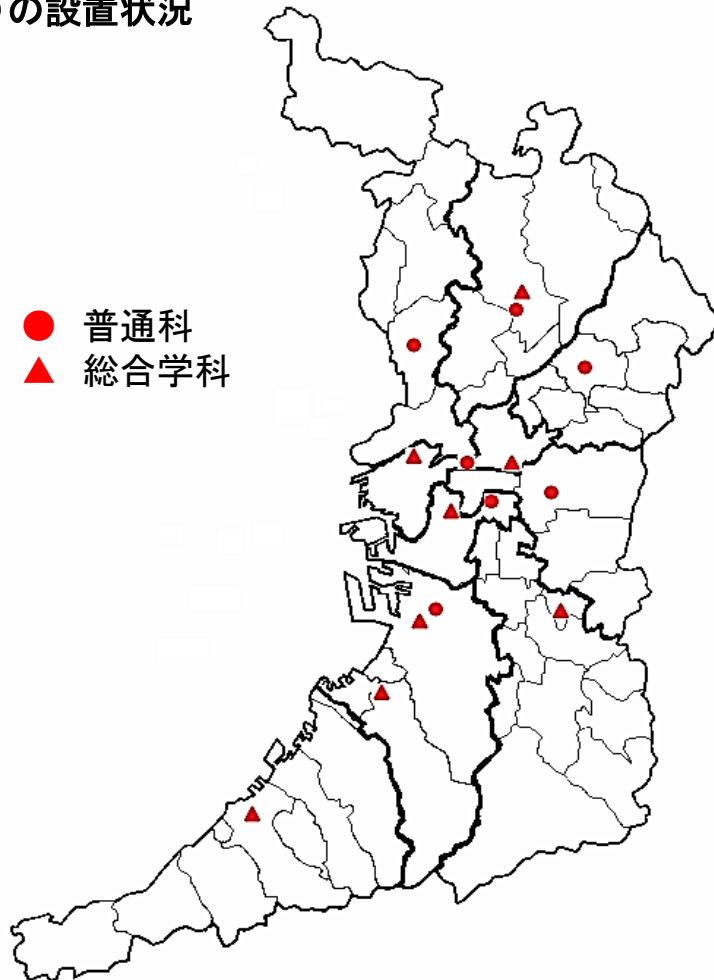
- 総合学科
- ★ 多部制単位制



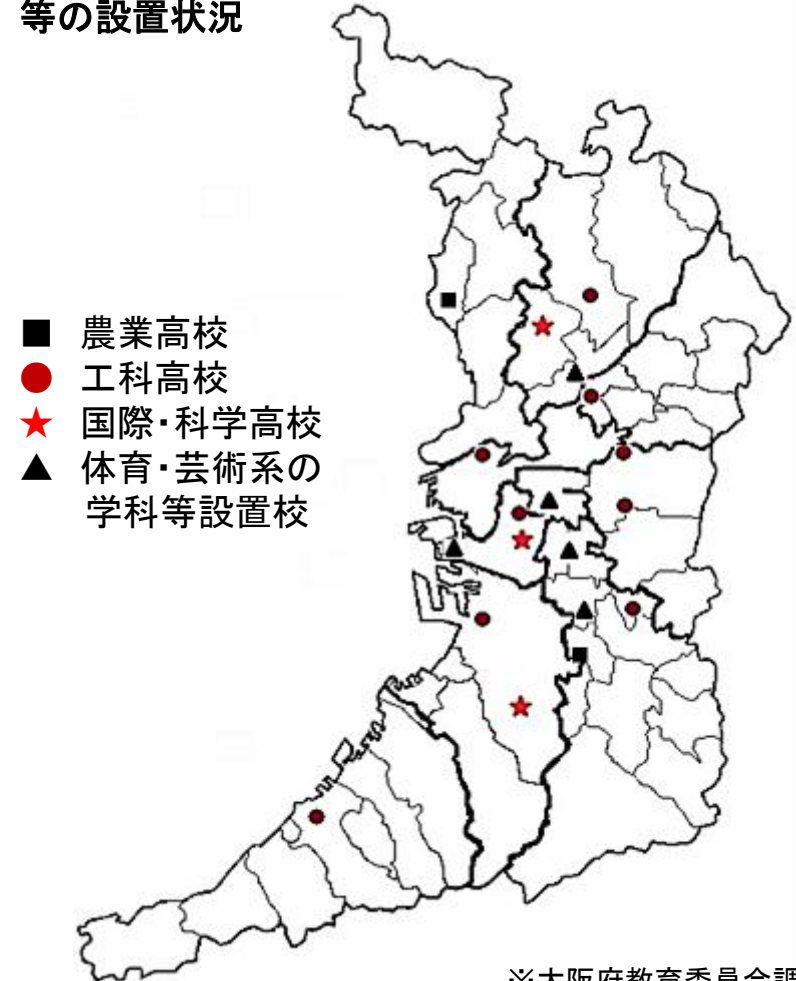
※大阪府教育委員会調べ

○ 府立高校の配置状況(その3)

夜間定時制(クリエイティブスクール、多部制単位制Ⅲ部を含む)の設置状況



実業高校、国際・科学高校、体育・芸術系の学科等の設置状況



※大阪府教育委員会調べ